

## 抄 録

### 福島県における希少種ホシガレイの放流効果

和田敏裕・神山享一・島村信也・水野拓治・根本芳春

Effectiveness of Stock Enhancement of a Rare Species, Spotted Halibut *Verasper variegatus*,  
in Fukushima, Japan

Toshihiro WADA, Kyoichi KAMIYAMA, Shinya SHIMAMURA, Takuji MIZUNO, Yoshiharu NEMOTO

Aquaculture 364-365, 230-239 (2012)

福島県における希少種ホシガレイの放流効果について、漁獲統計、漁場分布、及び市場調査により明らかにした。1993年から2007年にかけて、ホシガレイ種苗当歳魚及び若齢魚（各7.5-10.8 cm, 20.0-51.0 cm）計426,704尾を県内6か所に放流した。種苗放流以前のホシガレイの漁獲量は、1987年の5.3トンから1993年の1.0トンに減少した。種苗放流後は漁獲量が増加し、1996～2010年で平均 $2.7 \pm 0.6$ トンとなった。全長25-70 cmに達したホシガレイは、主にさし網や底びき網により採捕され、それぞれの水深帯は索餌場及び産卵場に対応していた。放流魚の混入率は高く、2000年代中旬には70%を超え、2004年には最高91%に達した。重回帰分析により、放流尾数が多いほど、放流日が遅れるほど回収率が低下すると推察された。本研究は、希少種の地域資源は種苗放流により増大し得ることを示した。また、希少種では、種苗放流の影響が大きく、放流効果は普通種に比べて天然資源の多寡に影響を受けにくいと考えられた。希少種の栽培漁業では、種苗放流から漁獲、水揚げ市場まで包括的な調査を行うことにより回収率に及ぼす要因の探索や対象種の生態的特性の解明が可能となる。これらの結果のフィードバックにより放流技術が洗練される。